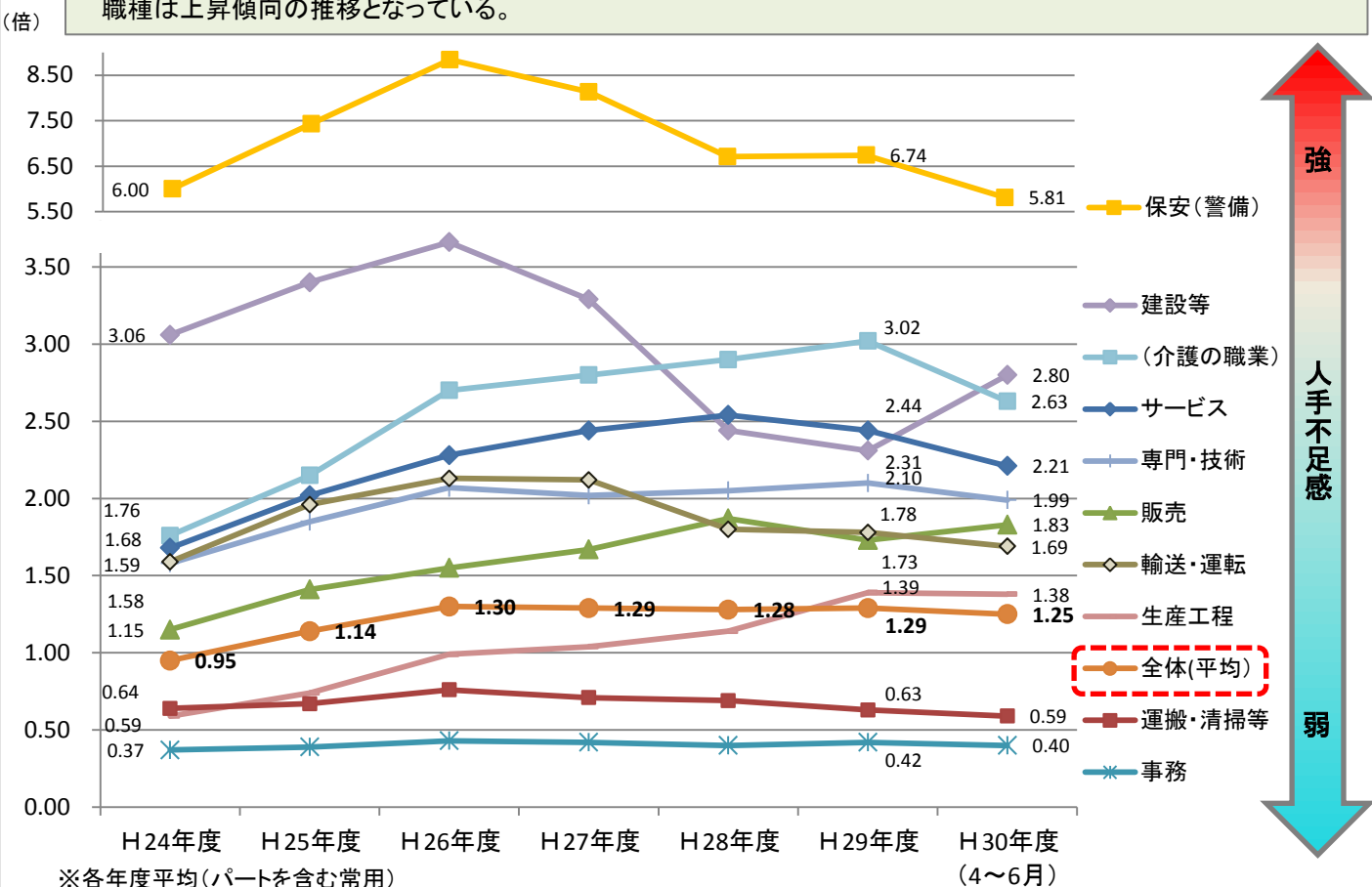


◇ 復旧・復興需要から続く、全国的な雇用情勢の改善傾向から有効求人倍率は、このところ1.4倍を超える高い水準で推移しており、多くの職種で人手不足の状況が続いている。
 このような状況から、人手不足が求人募集時の賃金額に与える影響について考察した。

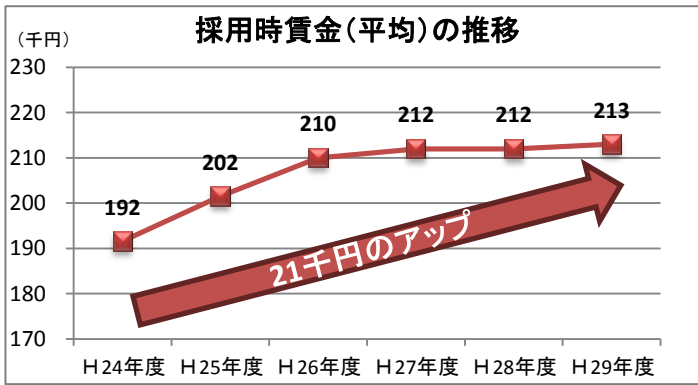
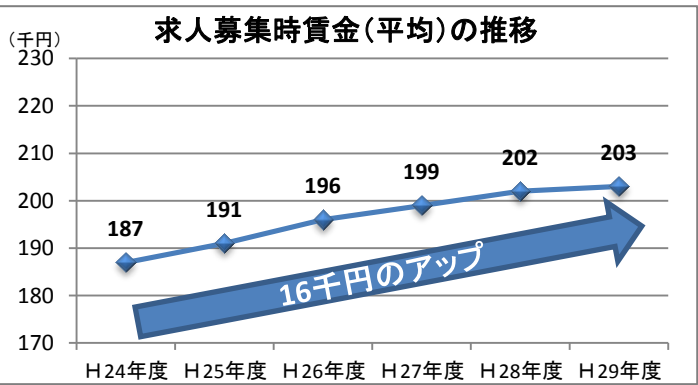
① 職種別有効求人倍率(常用)の推移

- ◆ 建設等の職業、輸送・運転の職業及び保安(警備)の職業は、復旧・復興の求人需要に連動し、平成26年度をピークに減少傾向で推移しているが高水準を維持している。
- ◆ 運搬・清掃等の職業、事務の職業は、全体(平均)を下回り横ばい傾向で推移しているのに対し、これ以外の職種は上昇傾向の推移となっている。



② 賃金(募集・採用時)額の推移

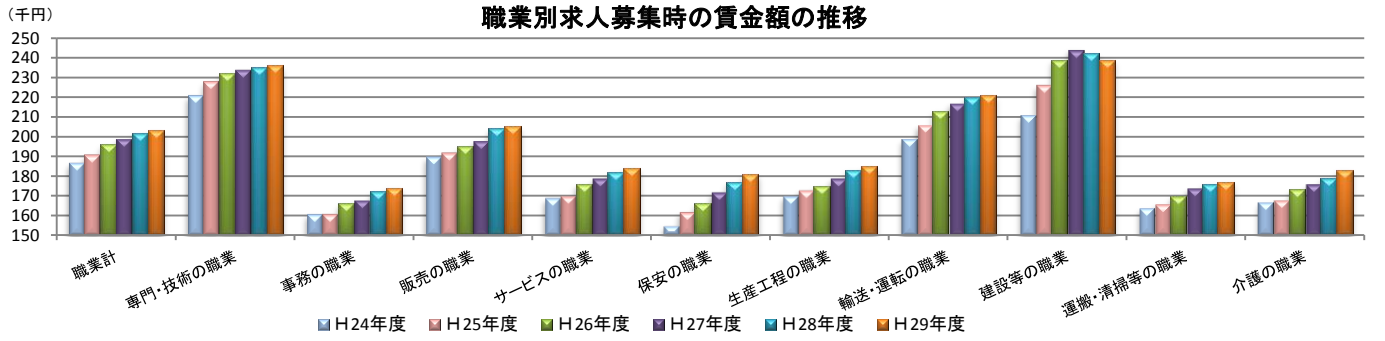
- ◇ 求人募集時(平均)賃金 ⇒ 求人票(フルタイム)に記載された下限と上限の賃金(募集ベース)額の平均月額。
- ◇ 採用時賃金(平均) ⇒ 雇用保険被保険者資格取得届に記載された採用時の賃金額(採用ベース)の平均月額。
- ◆ 両方とも賃金額が上昇しているが、人手不足の現状から良い人材を取ろうとすると求人募集の上限に近い賃金で採用される傾向があるため、採用時賃金(採用ベース)の上昇幅が大きくなっている。



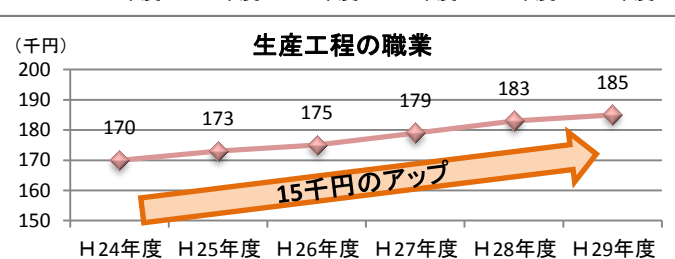
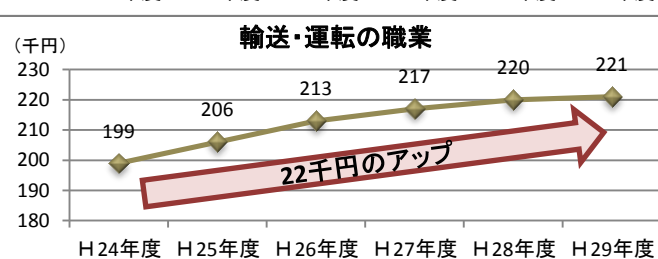
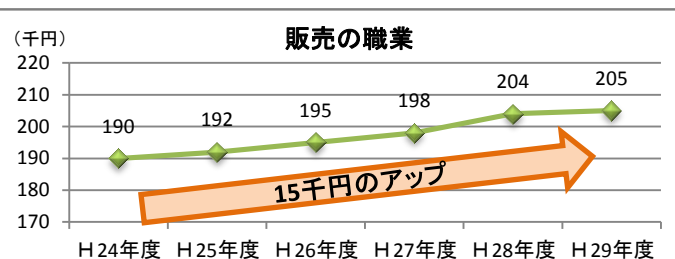
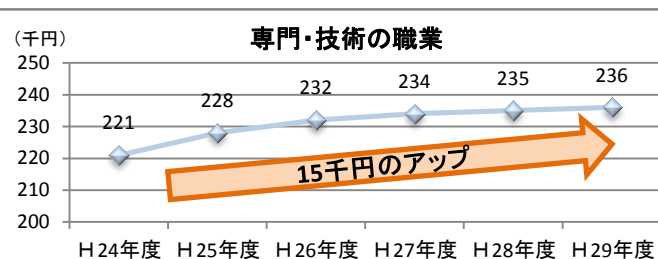
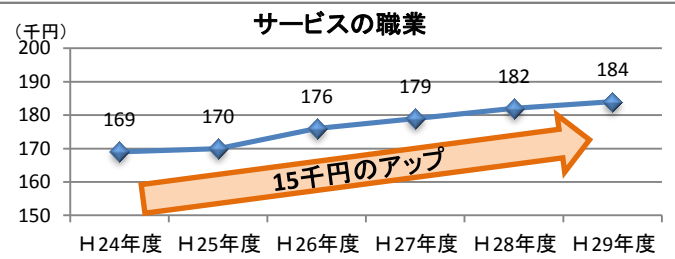
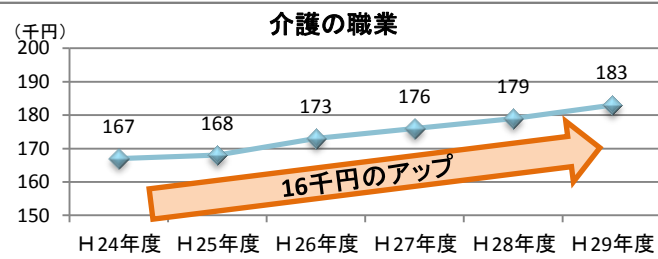
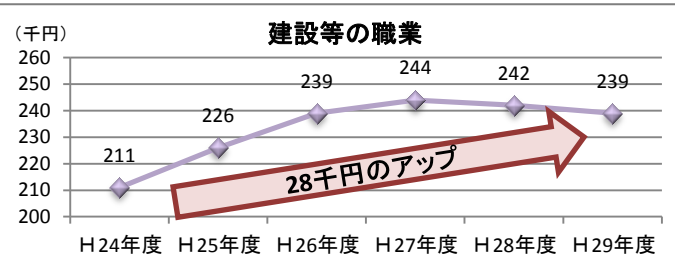
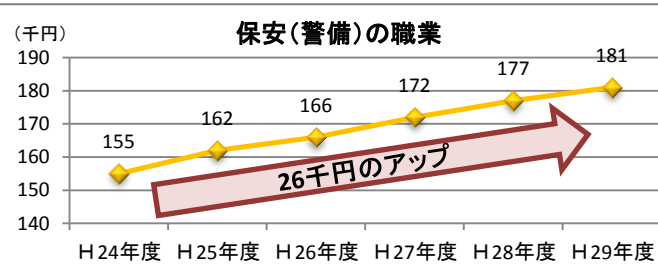
③ 職業別に見た求人募集時の賃金額の推移

◆平成24年度と平成29年度の賃金を比べた場合、求人倍率1倍以上の人手不足職種は、1万5千円以上の上昇と上昇幅が大きくなっており、特に復旧・復興関連の職種である、建設等の職業、保安の職業、輸送・運転の職業は2万円を超えている。

一方、求人倍率1倍未満の事務の職業、運搬清掃等の職業は1万3千円の小幅な上昇となっている。



◆求人倍率1倍以上の職種



◆求人倍率1倍未満の職種

